

関東山地風早峠地域における秩父累帯北帯の層序の再検討

Revised stratigraphy of the Northern Chichibu Belt in the Kazahaya-toge area, Kanto Mountains

小久保 晋一 [1]; 松岡 篤 [2]

Shinichi Kokubo[1]; Atsushi Matsuoka[2]

[1] 新潟大・理・地質; [2] 新潟大・理・地質科学

[1] Geology, Niigata Univ; [2] Dept. Geology, Niigata Univ

埼玉県皆野町風早峠地域を中心とした地域における秩父累帯北帯の地層について層序区分の再検討を行った。調査地域の地層は、構造的低位より、柏木層、万場層、上吉田層に区分される。従来、風早峠ユニットとされていた陸源碎屑岩を主体とする部分は、上吉田層最上部の一部層とみるのが適当である。柏木層は、主に淡緑色珩質凝灰岩と泥岩からなり、チャートや緑色岩を伴う。本層の泥岩は、暗灰色で千枚岩化しているのが特徴である。万場層は、主として緑色岩からなり、泥岩、チャート、石灰岩を伴う。上吉田層は、主としてチャート、砂岩泥岩互層および泥質混在岩からなり、緑色岩、珩質凝灰岩、珩質泥岩、珩質粘土岩、石灰岩、チャート角礫岩、礫岩を伴う。地層は一般に低～中角度に傾斜し、背斜・向斜構造を繰り返す地質構造をなす。褶曲軸の走向は東西性である。調査地域内の128地点160試料中、53地点63試料から放散虫化石が得られた。そのほとんどは、今回初めて産出を確認した地点である。

柏木層からは、現在までのところ、年代決定に有効な放散虫化石は得られていない。万場層からは、1地点の珩質泥岩から、*Striatojaponocapsa* sp. cf. *plicarum* (YAO), *Eucyrtidiellum unumaense* (YAO) などの放散虫化石が得られ、ジュラ紀中世の *Striatojaponocapsa plicarum* 帯 (JR4) から *Striatojaponocapsa conexa* 帯 (JR5) のどこかの層準に位置づけられる。上吉田層からは、2試料の珩質泥岩から *Striatojaponocapsa plicarum* (YAO), *Cyrtocapsa mastoidea* YAO, *Stichocapsa convexa* YAO など、ジュラ紀中世中期の *Striatojaponocapsa plicarum* 帯 (JR4) を示す放散虫化石が得られた。上吉田層の最上部の碎屑岩から、ジュラ紀中世前期の *Laxtorum(?) jurassicum* 帯 (JR3) を示す放散虫化石の産出が報告されていることを考慮に入れると、調査地域の地層内で構造的上位から下位に向かって碎屑岩の堆積年代が若くなるという傾向が認められるといえる。